

「第10回くらしの足をみんなで考える全国フォーラム2021」を開催します

「くらしの足をみんなで考える全国フォーラム」は、「くらしの足」の問題を解決するため、当事者、行政職員、研究者、バス・タクシー事業者、福祉・介護・医療の従事者、NPOなど様々な人が集まり、地域や立場を越え、利用者・生活者の目線をベースに本音で語り合い、それぞれが抱える問題解決のヒントを得る「気づき」の場

として、開催するイベントです。

今年度は、オンライン（Youtube配信、一部ZOOMを使用）にて開催します。プログラム・参加申込等の詳細については、特設ページをご覧ください。皆様のご参加をお待ちしております。

日時	2021年10月31日(日)10:00~16:30 (終了時間は予定です)
参加費	1,000円(参加申込は10月24日締切)
主催	くらしの足をみんなで考える全国フォーラム実行委員会 (実行委員長:岡村敏之 東洋大学教授)



2020年度 リレートークの画面(オンライン開催)

特設ページURL <https://zenkokuforum.jimdofree.com/>

第13回バリアフリー推進勉強会 in 関西を開催します

当財団では、移動円滑化に関する新しいテーマや課題について、関心のある方々と情報共有し改善の方向性を考えることを目的とした交通バリアフリーに関する勉強会を定期的で開催しております。次回は、「視覚障害者向けナビゲーションタグの活用について」と

題し、オンラインにより先進的な事例紹介と研究者、当事者、技術者によるパネルディスカッションを行います。皆様のご参加をお待ちしております。

プログラム	
開会挨拶	公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団
導入・課題提起	「視覚障害者ナビゲーションの経緯と歴史」 柳原崇男氏 (近畿大学理工学部 准教授)
事例発表①	「視覚障がい者移動支援アプリshikAIのご紹介」 小西祐一氏 (リンクス株式会社 代表取締役会長)
事例発表②	「NaviLensについて」 北山ともこ氏 (NPO法人アイ・コラボレーション神戸 理事)
事例発表③	「コード化点字ブロックを用いた音声情報案内システム」 松井くにお氏 (金沢工業大学 工学部情報工学科 教授)
デモンストレーション	①ナビゲーションタグ利用シーンの紹介(動画) ②視覚ナビゲーションタグアプリ体験
パネルディスカッション	コーディネーター: 柳原崇男氏 (近畿大学理工学部 准教授) コメンテーター: 三星昭宏氏 (近畿大学 名誉教授) パネリスト: 事例発表者3名、川口育子氏 (日本インクルーシブクリエイターズ連盟 クリエイティブディレクター)

配信日 2021年10月11日(月)~29日(金) (詳細は、ホームページでご確認ください)

http://www.ecomo.or.jp/barrierfree/benkyo/benkyo_top.html

第70号: 2021年9月発行

公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団 〒102-0076 東京都千代田区五番町10番地 五番町Kビル3階

TEL: 03-3221-6672 (代表 総務部) 03-3512-5280 (総務部 鉄道駅公共事業課) 03-3221-6673 (バリアフリー推進部)
03-3221-7636 (交通環境対策部 グリーン経営推進課) 03-3221-7637 (交通環境対策部 企画課)

FAX: 03-3221-6674

当財団ホームページ: <http://www.ecomo.or.jp>

Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION



- 特集 ●
「らくらくおでかけネット」における
プラットホームと車両乗降口の段差・隙間情報の追加について
- 活動案内 ●
バリアフリー推進部/交通環境対策部

公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団

「らくらくおでかけネット」における プラットホームと車両乗降口の段差・隙間 情報の追加について

当財団では、高齢者や障害者等が全国の公共交通機関を円滑に利用できることを目的に、鉄道駅や空港・バス・旅客船の各ターミナルのバリアフリー設備情報やバリアフリー化された移動経路の情報を提供しているサイト「らくらくおでかけネット」を運営しております。

今夏、開催された東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、国内外から訪れる多くの移動制約者のさらなる円滑な移動の実現が望まれています。以前は鉄道駅において車椅子使用者は駅員等の介助なしに列車に乗降することができませんでした。

そのため、国土交通省では2018年に車椅子使用者の単独乗降できるプラットホームと車両乗降口の段差・隙間の課題に

取り組み、2019年10月に単独乗降しやすい段差・隙間の目安値を『バリアフリー整備ガイドライン』に追記しました。

この取り組みを受けて、障害者団体や鉄道事業者から一律の情報提供が必要とのご意見があり、国土交通省鉄道局と協力して2021年7月7日、「らくらくおでかけネット」の情報内容にプラットホームと車両乗降口の段差・隙間に関する情報を追加しました。

プラットホームと車両乗降口の段差・隙間に関する情報表示内容

高輪ゲートウェイ駅 駅情報(抜粋)

高輪ゲートウェイ	
ホームドア設置状況	山手線/京浜東北線
ホーム形状	島式2面4線
設置ホーム	1・2・3・4番線
ホームドア種別	可動式ホーム種
備考	
プラットホームと車両乗降口の段差・隙間に関する情報	
縮小しているホーム	あり(山手線、京浜東北線)
対応ホーム情報	1・2番線(山手線) 3・4番線(京浜東北線)
備考	1番線(山手線) 6号車4番扉・7号車4番扉 2番線(山手線) 6号車4番扉・7号車4番扉 3番線(京浜東北線) 1号車4番扉・6号車4番扉 4番線(京浜東北線) 1号車4番扉・6号車4番扉

- ① 縮小しているホーム : 縮小しているホームの有無
- ② 対応ホーム情報 : 対応しているホームの番線名・路線名
- ③ 備考 : 車両の号車・扉番号 など

JR東日本、東京メトロ、東京都交通局など各社ホームページにも詳細な情報が掲載されています。

らくらくおでかけネット
https://www.ecomo-rakuraku.jp/



トップ画面

市ヶ谷

市ヶ谷	
所在地	東京都千代田区九段北 4-6-1
連絡先	03-3267-2637
車椅子での移動情報	
地上出入り口	利用可能(エレベーターあり)
改札口～ホーム	利用可能(エレベーターあり)
ホーム～車両	利用可能(エレベーターあり)
利用に関して	車椅子は利用できません。地上エレベーター(健康会館・新館、国鉄記念ビル)を利用して、改札口まで移動いただけます。南北線・有楽町線へはホーム(新有楽町)上のエレベーターにて乗降が利用いただけます。

駅・ターミナル情報

プラットホームと車両乗降口の段差・隙間に関する情報の調べ方



段差・隙間の解消された場所をホーム床面、ホームドアに表示している例



- ① 「駅・ターミナル情報」にて「(段差・隙間の情報を)調べたい駅」を調べる
- ② 表示された「駅・ターミナル情報検索」結果から「調べたい駅の鉄道会社・路線名」を選択する
- ③ 表示された「調べたい駅」の下部にスクロールし、「プラットホームと車両乗降口の段差・隙間に関する情報」を確認する。



DPI日本会議 事務局長 佐藤 聡さん

車椅子ユーザーが電車に乗る時、駅員さんにスロープ介助をお願いしますが、降車駅に駅員配置が完了しないと乗車できないのです。待ち時間は事業者によりますが、20分程度待つこともよくあります。目の前を自分だけが乗れない列車が何本も通り過ぎていく光景は、私たち障害者は受け入れられていないのだと感じ、とても切ない気持ちになります。

東京オリパラを契機として、国交省は車椅子ユーザーの単独乗降を目指し、段差3cm×隙間7cmという目安値を定めてくれました。事業者も整備に取り組んで下さっています。本年7月からは、らくらくおでかけネットで段差と隙間の情報提供が始まりました。自分が単独で乗降できるか事前に調べられるようになり、格段に利便性が向上しました。素晴らしい取り組みに心から感謝申し上げます。



国土交通省鉄道局技術企画課 課長 岸谷 克己さん

平成12年に交通バリアフリー法が施行され、誰もが当たり前で鉄道駅を利用できる環境を整備するために、エレベーターなどによる段差解消を進めてきましたが、車椅子を使用される方にとっては、列車とホームの間にある空間(隙間と段差)が単独では乗降できない最後のバリアとなっていました。このため、列車の乗降の際は、駅係員による渡り板等による介助の準備が整うまで待つことを余儀なくされています。

一方で、隙間については、列車がホームに接触しないよう安全面から必要であり、段差についても車両や線路等の維持管理の観点から、それらを解消すること(隙間と段差を全くなくすること)は非常に難しいものとなっていました。

この課題への解決に向け、平成30年に、学識経験者、鉄道事業者、障害当事者の方などで構成される検討会を設置し、実証試験を行ったうえで、車椅子を使用する方が介助なしに単独で乗降しやすい段差・隙間の目安値などを、令和元年8月にとりまとめました。同年10月には、この目安値を「バリアフリー整備ガイドライン」へ規定し、令和2年11月には、段差・隙間の縮小に向けた整備促進を図るため「移動等円滑化の促進に関する基本方針」に位置付けたところです。

併せて、単独で乗降しやすいドア位置の表示の共通化、ポスターによる啓発等の環境整備も車椅子を使用する方々のご意見を伺いながら進めており、この度、エコモ財団にご協力を頂き、段差・隙間の整備の情報を「らくらくおでかけネット」に掲載頂きました。これにより乗車駅だけでなく降車駅の情報も手軽に確認でき(相互直通運行など複数事業者を跨ぐ経路でも一括検索可能)、車椅子を使用する方々からも大変好評と聞いています。

引き続き、障害当事者の方々に寄り添いながら、「真の共生社会の実現」に向け、誰もが使いやすい駅や車両の整備に取り組んで参ります。

別府港フェリーターミナルにおける『別府港UDターミナル提言書』を策定しました

当財団では、日本財団の支援を受けて造設した共生社会実現に向けた移動円滑化基金（通称：バリアフリー基金）を用いて、2022年10月に完成予定の別府港フェリーターミナルのバリアフリー化に取り組むため、「別府港UDターミナル推進協議会」を設置し、ヒア

リング等により大分県内の多くの障害当事者等の意見を踏まえた『別府港UDターミナル提言書』を策定しました。

提言書は、施工主体である株式会社フェリーさんふらわあに渡され、今後の設計や工事に内容を反映していただくことになります。



別府港 UD ターミナル推進協議会メンバー



第3回協議会（於：別府亀の井ホテル）



『別府港 UD ターミナル提言書』表紙



提言内容 昇降装置の一例



現在の別府港フェリーターミナル（2021年6月撮影）

インクルーシブデザイン連続セミナー

～見えにくい障害の空港利用・航空機利用に関わる公開セミナーを開催しました～

6月17日(木)に、日本福祉のまちづくり学会事業委員会、東京国際空港ターミナル株式会社他との共催により、インクルーシブデザイン連続セミナーを東京国際空港スカイホールにて、対面式とオンライン（Zoom）配信のハイブリッド型にて開催しました。

本セミナーでは、認知症や発達・知的障害者など見えにくい障害のある人の空港利用という視点から、多様な人々の安全かつスムーズな移動を実現する方策を探ることを目的に、新田保次氏（大阪大学）、橋口亜希子氏（橋口亜希子個人事務所）から空港の取り組みについてお話いただいた後、座談会形式、綾屋紗月氏（東京大学先端科学技術研究センター）、牧野麻奈絵氏（東京大学先端科学技術研究センター）、さとうみき氏（DAYS BLG! はちおうじ）、平みき氏（一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ/NPO法人とも）に歩む認知症の会）に登壇いただき、熱心な議論が行われました。



パネルディスカッションの様子

交通サポートマネージャー研修の開催について

交通事業者向けのバリアフリー研修である「交通サポートマネージャー研修」を開催しています。障害当事者講師と学ぶ2日間の研修プログラムで、座学、実技、グループディスカッションを含む総合的な内容です。国土交通省による接遇ガイドラインの内容にも合致しており、共生社会実現に向けた取り組みの一環として位置付けられます。

今年度もコロナ禍の中、安全確保を徹底して東京地区、関西地区で開催しています。研修会場では通常より受講定員を4割程度減らし、手指消毒、検温、実技時の手袋着用等の対策を行っています。詳しい日程等は随時ウェブサイトでお知らせ致します。ふるってご参加下さい。



マスク、フェイスシールドを着用してグループディスカッションに臨む受講者

交通サポートマネージャー研修についての詳細はウェブページからご覧ください。



国土交通省総合政策局バリアフリー政策課の接遇ガイドラインはウェブページからご覧ください。



空港施設ユニバーサルデザインセミナー in 福岡を開催します

ユニバーサルデザインという概念は、ロナルド・メイス(Ronald Mace米国)氏により、1985年に公式に提唱されたものです。その考え方は、「年齢や能力、状況などにかかわらず、デザインの最初から、できるだけ多くの人が利用可能にすること」が基本コンセプトです。これを実現するためには最初から障害当事者と共にインクルーシブデザインで行うことがベストです。

その意味で、今回はインクルーシブデザインまではいきませんが、空港施設のユニバーサルデザインは、出来るだけ多くの人が利用できる空港を目指して、2019年度、2020年度において8つの空港を専門家(東京国際空港(羽田空港)・成田国際空港でデザイン実績を経験した8名)並びに、現地の空港職員等10名程度と空港全体を歩き、診断を行いました。さらに、問題点と課題、改善方法を議論しながら整理する方法をとりました。本セミナーでは、8つの空港の報告に加え、新しい課題として、「認知症・知的障害・発達障害」な

ど、見えにくい障害の対応方法や、刻々と変化しているサイン環境、二次交通の課題等を含めてお話しします。



セミナー内容/日時			定員
開催日時	2021年10月14日(木)	12:30~17:30	
	2021年10月15日(金)	9:00~16:30	
開催場所	福岡国際会議場4階409・410会議室他		
プログラム	10月14日(木)		60名
	▶ 視察/福岡空港国内線ターミナルビルの視察 (現地参加のみ)	12:30~15:00	
	▶ セミナー/福岡空港の整備を巡って	16:00~17:30	会場60名 Zoom 80名
	10月15日(金)		会場60名 Zoom 80名
	▶ 第一部:空港のユニバーサルデザイン	9:00~12:15	
	▶ 第二部:成田国際空港の試み	13:30~14:30	
▶ 第三部:特定テーマ	14:45~16:30		
参加費	3,000円(資料代)		
お申込み	https://eventregist.com/e/Airport_UD_in-FUKUOKA フォームでのお申込みが難しい方は、お名前(ふりがな)、ご所属、参加方法(現地参加かZoom参加)、ご連絡先のメールアドレス、当日ご連絡が取れる電話番号、事前テキスト希望の有無を記載の上、事務局までメールでご連絡ください。 ※ 現地参加は満席のため、Zoom参加のみとなります。		
お問い合わせ	事務局: jigyou.fukumachi@gmail.com/ 担当:丹羽		

バス車内における車椅子固定に関する動画を公開しています

ノンステップバスが普及してきましたが、「車椅子の固定」については車椅子が多様であり、固定方法がわかりにくく時間がかかるなどの課題があります。車椅子使用者の路線バス利用における安全性と

利便性の向上並びに「車椅子の固定」に関する適切な情報発信のため、日本バス協会、国土交通省自動車局安全政策課・旅客課とともに動画を公開し周知を図っています。ぜひ研修等にご活用下さい!



交通サポートマネージャー研修の以下のウェブページからご覧下さい。

<http://www.ecomo.or.jp/barrierfree/best/index.html>



標準案内用図記号ガイドライン2021を作成、公開しました

2020年1月から新型コロナウイルスの感染拡大を受け、日本国内でも新しい生活様式が始まり、日常生活が一変しました。そこで、感染症対応に必要なと思われる図記号を検討し、「標準案内用図記号

ガイドライン2021」を作成し、公開しました。

新たに追加した感染症対応の図記号は、下記の5項目です。

距離を保ってください Keep your physical distance		換気してください Please ventilate	
マスクを着用してください Wear a facial mask		(備考) 換気している状況を示す場合 換気しています Optimum air ventilation	
手を消毒してください Disinfect your hands		着席禁止 Do not sit here	

標準案内用図記号ガイドライン2021

http://www.ecomo.or.jp/barrierfree/pictogram/picto_top2021.html



ECOMO交通バリアフリー研究・活動助成募集のお知らせ

交通バリアフリーに関わる先進的な調査研究や技術開発を行う研究者等、活動を行う個人、団体等に対する助成事業募集を以下のとおり行います。詳細はホームページをご覧ください。ご応募お待ちしております。

募集期間	2021年11月1日(月)～11月30日(火)とします。※当日消印有効
助成期間	2022年4月1日～2023年3月15日
助成額	<ul style="list-style-type: none"> ・若手研究者部門 :50万円以内/件 ・一般部門 :100万円以内/件 ・研究・活動部門 :20万円以内/件
優先的重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者及び障害者等の移動等円滑化 ● 公共交通機関における新型コロナウイルス感染症の影響とその対策方針 ● 2020東京オリンピック・パラリンピックのレガシー ● 共生社会構築に向けて



http://www.ecomo.or.jp/barrierfree/bfyjosei/bfyjosei_top1.html

ECOMO交通バリアフリー研究・活動助成成果報告会を開催します

2020年度の助成対象事業について、成果報告を行う第14回報告会を開催することになりました。今回は、2日に分けて開催いたします。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、オンライン(ZOOMウェビナー)での開催となります。

プログラム	
11月19日(金) 15:00～17:15	12月7日(火) 15:00～17:30
15:00 開会/開会挨拶	15:00 開会/開会挨拶
15:05 2020年度成果報告:一般部門 4事業	15:05 2020年度成果報告:若手研究部門 1事業
① 利用者視点による交通バリアフリー接遇の簡易評価尺度の開発	⑤ 岩手県陸前高田市におけるラストマイル輸送に関する研究
② 過疎地域における高齢者のモビリティ施策としてのタクシー補助制度のありかた	15:25 2020年度成果報告:研究・活動部門 4事業
③ 聴覚障害者の移動時の快適性に関する当事者研究	⑥ 四肢まひ者の公共交通機関利用を支援するための調査研究
④ 聴覚失認者にとっての緊急災害時のチャイムの意義	⑦ 通院送迎バスの共同運行による患者の通院負担軽減に向けた取り組み
16:35 質疑応答	⑧ どこでも・だれでも・気軽にサポートプロジェクト cont
17:05 全体総評 秋山哲男審査委員長	⑨ オリ&バラ開催によるバリアフリー化効果の評価の試み
	16:50 質疑応答
	17:15 全体総評 秋山哲男審査委員長



お申込、詳細については、以下のURLをご覧ください。

http://www.ecomo.or.jp/barrierfree/bfyjosei/2021/bfyjosei_2021_report14_top.html

運輸事業におけるグリーン経営認証制度を実施しています



グリーン経営とは、環境マネジメントシステムの一つであり、企業の社会的責任として、環境問題にも積極的に取り組むためのツールです。

国土交通省は、この認証制度を運輸部門における実効性のある環境対策として評価し、国の政策(国土交通省「環境行動計画2014～2020」)の取り組みの一つとして取り上げています。

■ 当財団による普及活動

◆グリーン経営認証取得講習会の開催

運輸事業者を対象とした講習会を国土交通省や事業者団体等と共同して、全国各地で開催しています。講習会では、グリーン経営の取り組みや認証制度の概要、認証を取得するために取り組むべき具体的な活動内容や申請方法を説明し、受講者からの質問にもお答えしています。

◆グリーン経営認証リーダー研修会の開催

認証登録後の情報提供やフォローアップの一環として、認証登録事業者を対象とした研修会を全国で開催しています。この研修会は、経営層はもとより各分野でリーダーの役割を担う方々にグリーン経営認証に係る周辺情報・これまでの成果・これからへの期待、環境関連法規制や教育資料の作成等を当財団より説明しています。

◆出前説明会の開催

グリーン経営認証の普及や理解の深化を図るため、荷主企業や元請物流事業者に対して「出前説明会」を開催しています。

この出前説明会は、荷主企業や元請物流事業者が協力会社向けに開催する各種の講習会や研修会に当財団の職員が出向き、グリーン経営認証について説明する取り組みです。

■ 国・自治体・業界団体・金融機関による様々な支援

グリーン経営認証制度は、当財団が国はもとより業界団体と一体となって推進している制度です。本制度の普及・促進にあたっては、国等による補助制度での優遇、各種ガイドラインへの位置づけに加え、業界団体による認証取得費用の助成といった様々な支援が行われています。

◆業界団体による認証取得費用の助成

一般社団法人日本冷蔵倉庫協会と都道府県トラック協会は、グリーン経営認証に取り組む会員事業者に対して、グリーン経営認証の取得に要した費用の一部を助成しています。

◆金融機関等による低利融資制度・信用保証協会による保証料の割引

金融機関等では、グリーン経営をはじめとした環境マネジメントシステムを実施している事業者に対して、「低金利の運転・設備資金融資」、「私募債の発行保証・引受代行」、「信用保証協会による保証料割引」、「損害保険の保険料割引」といった優遇を講じています。

【グリーン経営認証制度の概要】

- ・認証機関:当財団
- ・対象業種:トラック、バス、タクシー、倉庫、港湾運送、旅客船、内航海運の7業種
- ・登録開始年月:平成15年10月<トラック運送事業>
平成16年4月<バス事業、タクシー事業>
平成17年7月<倉庫業、港湾運送事業、旅客船事業、内航海運>

◆自治体による各種支援

自治体の中には、地域における環境保全の取組や地域住民の生活環境改善への一助として、グリーン経営認証を活用した環境保全に尽力する事業者を評価し、グリーン経営認証の取得に要した費用の一部を助成・補助している自治体があります。こうした助成や補助は、環境問題に積極的に取り組む事業者の経済的負担の軽減を図るとともに、環境保全に向けた意識の高揚にも寄与しています。

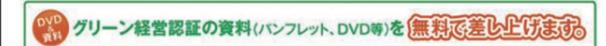
自治体の皆様へ

グリーン経営認証取得の効果は、燃費の向上やCO₂排出原単位の改善だけでなく、「交通事故件数や車両故障件数の減少」など、まちの安心や安全に寄与すると思われる効果もあります。

**ぜひ、あなたのまちも
運輸事業者の認証取得に対する助成・補助や支援についてご検討いただけないでしょうか**

当財団では、グリーン経営認証制度をご理解いただくために「グリーン経営認証の資料セット(パンフレット・DVD(グリーン経営認証制度の概要と取得の効果)・省エネ温度計カード)」をお送りしています。

ご希望の方は、グリーン経営専用ホームページにある以下のバナーからお申込みください。



詳しくはグリーン経営専用ホームページ <https://www.green-m.jp/> まで



コロナ禍におけるモビリティ・マネジメント教育の実施状況

◎背景と目的◎

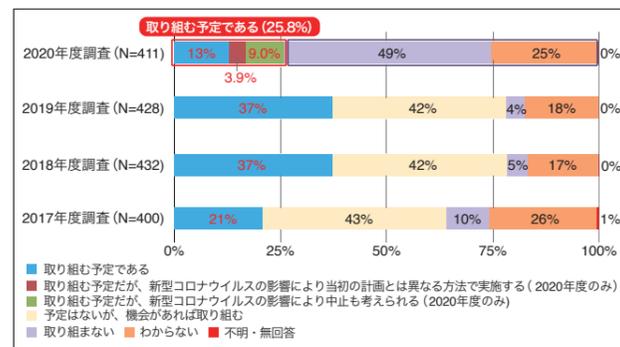
交通を題材として、単に公共交通機関の乗り方を学ぶだけでなく、地域や社会とのかかわりや課題などを通して今の自分の行動を見直し、将来の社会の一員として環境や社会に配慮した行動がとれる人材を育む「モビリティ・マネジメント教育（以下、「MM教育」という）」は現在、数多くの地域で様々なプログラムが実施されています。エコモ財団では毎年、MM教育の実施状況等を把握するためアンケート調査を実施しています。

◎アンケート調査結果◎

2020年度の実施予定

実施予定の自治体の割合は、2018年度調査では36.6%。2019年度では37.1%あったが、2020年度は25.8%と10ポイント以上低い割合となりました。また、「取り組まない」、「わからない」と回答した自治体のうち、18.2%の自治体が「新型コロナウイルスの影響で中止した」と回答されていて、実施を断念された学校が一部あったことがわかりました。

なお、当初の予定とは異なる方法で実施された例として、バスまつりなどのイベントでの不特定多数への実施を止め、学校単位での乗り方教室の実施や、ホームページでの広報に切り替えられたり、今まで教室で実施されていた授業も、グループになって意見を出し合ったりする学習は止めて、一人ひとり冊子やプリントなどに切り替えられたことがわかりました。



<上記グラフ2020年度調査で取り組まない、わからないと回答した理由>

理由	回答数 (件)	構成比 (%)
これまで実施したことがない	193	63.7
例年は実施していたが、今年度は新型コロナウイルスの影響のため中止した	55	18.2
例年は実施していたが、今年度は取り組まない (新型コロナウイルスの影響以外)	7	2.3
その他	48	15.8

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、2020年2月28日には小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校において臨時一斉休業が要請されたり、修学旅行や遠足・校外学習の中止など、様々な対策がとられました。

そこで、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策によって、学校でのMM教育実施に対してどのような影響があったのか、アンケート調査から紹介します。

調査概要

調査対象	全国の都道府県と市、特別区の862自治体の交通政策担当部署
調査時期	2020年10月12日～2020年10月30日
配布回収方法	郵送配布、インターネット、郵送、FAXによる回収
有効回収数	411件(47.8%)

実施する理由

コロナ禍においてもMM教育を実施する理由として「自治体として公共交通の利用促進を図るため」が78.3%と最も多く、次いで「身のまわりの交通に関する知識を学習するため」が50.9%となりました。また、その他の内容としては、「学校からの要請があったため」と回答した自治体もあり、学校として重要な取り組みとされていることもわかりました。

理由	回答数 (件)	構成比 (%)
自治体として公共交通の利用促進を図るため	83	78.3
身のまわりの交通に関する知識を学習するため	54	50.9
人や社会、環境にやさしい行動を取ることができ、人材の育成を目指しているため	20	18.9
他の教科では学習することができない内容・能力の強化を目指すため	11	10.4
市町村・交通事業者等からの要請があったため	8	7.5
その他	21	19.8

これまでのアンケート結果や事例、参考となる教材等は、モビリティ・マネジメント教育ポータルサイトに掲載しています。



<http://www.mm-education.jp/tebiki/index.html>

EST交通環境大賞の受賞団体を発表しました

当財団及びEST普及推進委員会は、「第12回EST交通環境大賞」の各賞を決定しました。

EST交通環境大賞は、わが国におけるESTの更なる普及のために、地域の交通環境対策に関する取り組み事例を発掘し、優れた取り組みの功績や努力を表彰するとともに、その取り組みを広く紹

介し、普及を図るために、2009年度に創設したものです。

今回は、応募のあった9件の中から、EST普及推進委員会(委員長:加藤 博和/名古屋大学教授)における審査を経て、大賞1件、優秀賞1件、奨励賞1件を、それぞれ以下のとおり決定しました。

賞	授賞団体名	主な取り組みの名称
大賞	【国土交通大臣賞】 ○ YKK株式会社 (富山県黒部市)	富山県黒部市における社員通勤変革への挑戦
優秀賞	○ 小山市コミュニティバス おーバス利用促進プロジェクト実行委員会 (栃木県小山市)	新バスシステム・BRTを契機とした持続可能な交通環境の構築
奨励賞	○ 道南バス株式会社、室蘭市 (北海道室蘭市)	官民一体で進める路線バス利用促進と環境まちづくり



バッシュタウン全景(富山県黒部市) (YKK株式会社)



YKK黒部事業所構内バス停 (YKK株式会社)



生活情報タワロイド紙Bloom! 親子でバス車内でBloom!
(小山市コミュニティバス おーバス利用促進プロジェクト実行委員会)



交通エコロジー教室【ハイブリッドバス乗車体験】
(道南バス株式会社、室蘭市)

受賞団体の取組内容や受賞理由は、ESTポータルサイトに掲載されています。



EST交通環境大賞の表彰式は、10月4日(月)14:00より東京都千代田区のスクワール麹町「錦華」において開催される「第12回EST交通環境大賞表彰式・記念講演」の中で行います。当日の様子はエコモ財団のYouTubeチャンネルにてオンライン配信される予定です。

